

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2013 開催
ーソフトPVCで日本の力をためすー

PVC Design Award 事務局

■随想

◇日本のお祭りシリーズ（その2）
ー足柄開成町で、ひな祭りを見ました！ー

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2013 開催
ーソフトPVCで日本の力をためすー

PVC Design Award 事務局

ー昨年スタートした「塩ビものづくりコンテスト」は、今回が飛躍を目指す3回目の開催になります。名称も「PVC Design Award 2013」とデザインへの期待を込めて実施します。今回も、経済産業省、公益法人日本インダストリアルデザイナー協会の後援を頂き、ソフトPVCの関連6団体が主催し、5月から10月の期間で開催します。デザイン応募は5月7日、製品応募は7月1日からスタートして各3ヶ月間募集し、同じ土俵で最終審査を行い、大賞1点、優秀賞3点、入賞10点を選び、それぞれに副賞100万円、10万円、2万円を贈呈します。

[\(フライヤー\)](#)

これまでの取り組みで多くの学生や一般デザイナーの方々が応募され、少しずつ認知度が高まってきていますが、更により高いものを目指して新たな工夫を添えながら開催します。

そのひとつが応募頂くデザイナーの方々へのセミナー開催と専用問合せ窓口の開設です。これまでの応募内容を拝見するとソフトPVCの形や色にとらわれて、その特徴が十分に活かされていない場合が多く、一次審査で選ばれたものでも、プロットタイプの試作段階でミスマッチがおこり、潜在的な力が発揮されていないことがありました。そこで、事前に、東京、名古屋、大阪の各地区で、デザイナー向けのセミナーを4月から6月に開催し、ソフトPVCの素材とその加工方法、PVC製品の特徴などをご理解頂くことにしました。主催者の加工・卸組合の経験者が素材や加工サンプルを用いて説明し、質疑応答を交えて理解を深めて頂きます。残念ながらセミナーに参加できない方々には問合せ窓口を通じて、主催団体企業の専門家が疑問にお答えして、ソフトPVCの理解を深めて頂きます。

さらに、主催団体がソフトPVCの原料・素材から加工、卸の組合企業約300社のサプライチェーンでつながっていることから、一次審査を通過したデザイン提案を丁寧に無償でプロットタイプにつくって最終審査に臨み、新たなビジネスとしての価値ある提案には、積極的なビジネスサポート・商品化に向けたマッチングを行います。

その意気込みで、今回のテーマは「ソフトPVCで日本の力をためす」としました。新たな価値をつくりだすデザイナーの力と、それを実現する確かなモノづくりの技術が合わさったときに、世界を驚かす「日本の力」になります。是非、デザイナーの方々にソフトPVCに興味を持って頂き、日本のモノづくりの力を活かして、PVC製品に新たな価値を生み出して頂きたいと願っています。

[PVC Design Award 2013 専用サイト](#)

■ 随想

◇日本のお祭りシリーズ（その2）

— 足柄開成町で、ひな祭りを見ました！ —

関東学院大学 織 朱實

お祭りシリーズと命名しましたが、とにかく近場(?)あるいは出張の際に、あまり知られていないようなお祭りを探してみましよう、というコンセプト。秋田の「なまはげ祭り」に続いて、八戸の「えんぶり祭り」と思ったのですが、春らしくなったので3月の春のお祭り、ひな祭りをご紹介します。

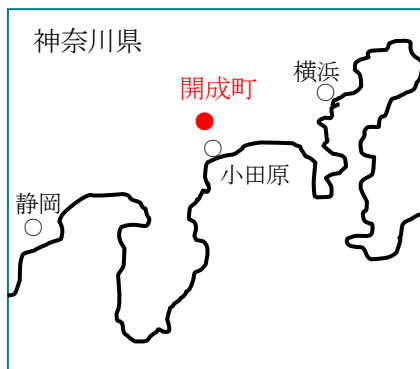
お雛様関係のお祭りとしては、柳川の「さげもん」、とか稲取の「つるし雛」とか酒田の「雛街道」とかが有名ですよね。お雛様行事は、華やかで楽しいので、いつかそういう有名なところも行きたいと思っていたのですが、なんと職場(小田原)のすぐ近くにも、素敵なお雛様イベントがあることを発見しました。



小田原から、小田急線で10分くらいの足柄地区の開成町です。富士フィルムさんのご近所です。「瀬戸屋敷ひなまつり」と命名されたイベントで、寄贈された古い民家に、こちらも寄贈されたという沢山の古い趣のあるお雛様たちが一堂に並べられています。最近の住宅事情では、七段飾りなど飾るスペースがなくなったけど、捨てるには忍びない、というお宅が結構あるのだと思います。全国から集められた古い趣のあるお雛様たちが、開成町の婦人会の皆さんのお手製のつるし飾りに囲まれている様子は、本当に華やかです。



寄贈された古民家



職場のすぐ近くなのにこんな素敵なイベントが行われているなんて全然知らなかったです。神奈川県の方に「神奈川県広いですよね。働いているのに、どんな場所でどんな名所があるのとか知らないのですよね」と言ったら、県の観光パンフやエリアごとの見どころマップを送ってください、そこで、見つけたのです。



母屋に飾られたお雛様とつるし飾り

母屋だけでなく、蔵にもお雛様！婦人会の奥様方が総出で対応してくださって、お茶をいれてくださったり、由来を説明してくださったり、外には物販コーナーがあったり、地域の文化祭的な雰囲気楽しい、ローカルイベントです。ただ、ネックはやはりアクセスです。開成町駅から、シャトルバスで 15 分と不便なのですが、こういう町おこしのイベントのおかげで、お雛様がまたいろんな人の目に触れられて本当に良かったと思います。

ところで、お雛様プチトリップを楽しんだ3月に、写真関連で大問題が発生していました。な、なんと!!! 写真のデータをいれていた外付けHDDが壊れてしまったのです。

写真のデータや仕事のデータを、ここ4年分くらい外付けHDDにこまめに移していたのですが、そのHDDをPCが認識しなくなり、慌ててネットで調べたら、外付



蔵に飾られたお雛様



けHDDは4年くらいで経年劣化するものなのですね。HDDで、バックアップ取っているつもりになっていました(途中までは、ダブルで入れていたのですが)、修復専門店を探して(ネットで比較している便利なサイトがあります)、電話で無料診断してもらったところ、物理的破壊ということで、修復費用は電話で5万~50万。すぐにお店で、初期検査をしてもらいに走りまわりました(たまたまその日午前の予定が一つキャンセルになり、銀座のお店にダッシュ!)

幸いなことに、壊れていたのは一番修復のしやすい磁気部分でした。

で、お値段は14万5900円!!! (詳しい人に聞いたら、「それは安いほうですよ。通常30万以上かかりますよ」とのこと。しかし、この金額は、かなり微妙な線をつけてきています。20万とかなら、もうあきらめるしかない、けど。14万というのは、子どもの入学式などの記念写真全部の復旧ということを考えると、支払ってもいいような、かなり悩ましい金額です。)

金額の問題は置いておいて、経験としては大変面白い思いをさせてもらえたと思います。データ修復会社では、会社内に入るのに空港のゲートのようなセキュリティを通り、荷物はすべてロッカーと、大変厳しいセキュリティ。ほこりが致命的ということもあり、食品工場のような雰囲気と情報漏出にとてもケアをしているのが印象的でした。まだ、まだ新しいビジネスという感じで、若い人たちがお客様に向かって全員で「いらっしゃいませ!」「ありがとうございます!」と声かけするのが体育会的なノリで面白かったです。

ここで言われたのは、「HDDは必ず劣化します。永久のものだと思わないでください」「まるで使わないでいると、ダメになりますし、使いすぎてもダメです」「動きが悪くなったり、兆候があるときは下手に動かすと破損が広がるので、直ぐとめて持って来てください」とのことです。HDDの中にデータを読み込んでいくというのがどんな繊細な作業なのか、わずか数mmの単位でゆがむと影響が出るというのを分かりやすく説明してくれたのですが、HDDは丈夫と思い込んで、持ち運びもそのままできていたりしていた自分がいかに無防備だったか改めて怖くなりました。

物理的損傷でなく、データのシステムが破損していると、ひとつひとつ数字を計算して入れていくという膨大な作業をしなければ、復旧できない様子も見せてもらいました。データ復旧って本当に大変なんですね。

とにかく①外付けHDDは、つけっぱなしにしないこと(通電していると劣化しやすいとのこと)、②かといって全然使わないのも×(私は、3か月に一度くらいまとめてバックアップしていたので)、③ダブルバックアップは必ず取らないといけないけど、素人は外付けHDDを2つか、本体+外付けHDDが一番現実的か?データ保存は、永遠の課題ですね。

写真に関してはやはりプリントするというのが一番いいような気がします。ということで、かなり痛い出費でしたが、この話はみなさん「そうだったんだ!知らなかった!」とおっしゃるので、少しでも同じ思いをする人がいなくなれば出費した価値もあるかな、と思いご紹介しました。

それでは、今回は、こいのぼりか花祭りの様子をご紹介できればと思います。ブログの方も見てくださいね。

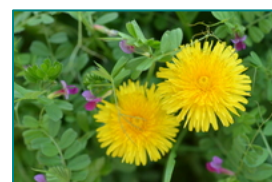
⇒ [ブログはこちら](#) ⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

私事ではありますが、最近、走行距離 17 万 km のマイカーの車検を通しました。購入したメーカーとは違うディーラーで車検関係の手続きをして頂いたのですが、新車購入の期待もあるためか、丁寧に老朽化している箇所を細部に亘り診て頂き、特に消耗品関係の交換を多くしました。戻って来た車に乗ってみて驚いたことは新車時の様な乗り心地になっていたことで、改めて日本車の高い技術力と信頼性を実感しました。この日本車の高い信頼性は、日本の高い科学力から成っていると考えられ、この高い科学力があれば経済力も維持できると思う毎日です。(KT)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp